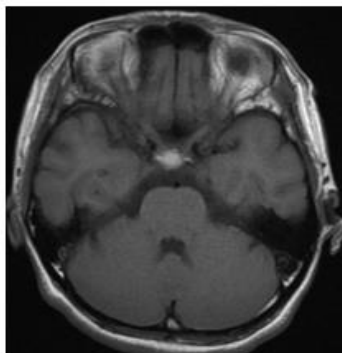


ラトケ嚢胞の内容物は

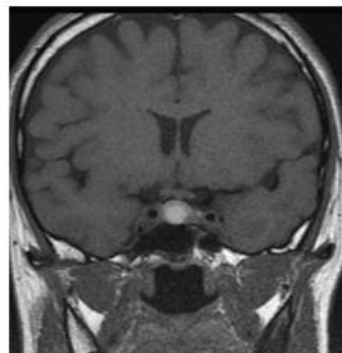
ラトケ嚢胞の内容物は 何故T1WIで高信号なのか 40代 女性

ムチン糖蛋白の多寡による
多ければ高信号
少なくなれば液性で通常の低信号

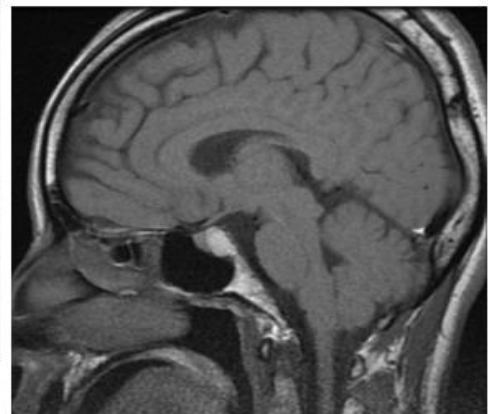
ムチン (mucin) はmucus (粘液) を語源
糖を多量に含む 糖タンパク質



A

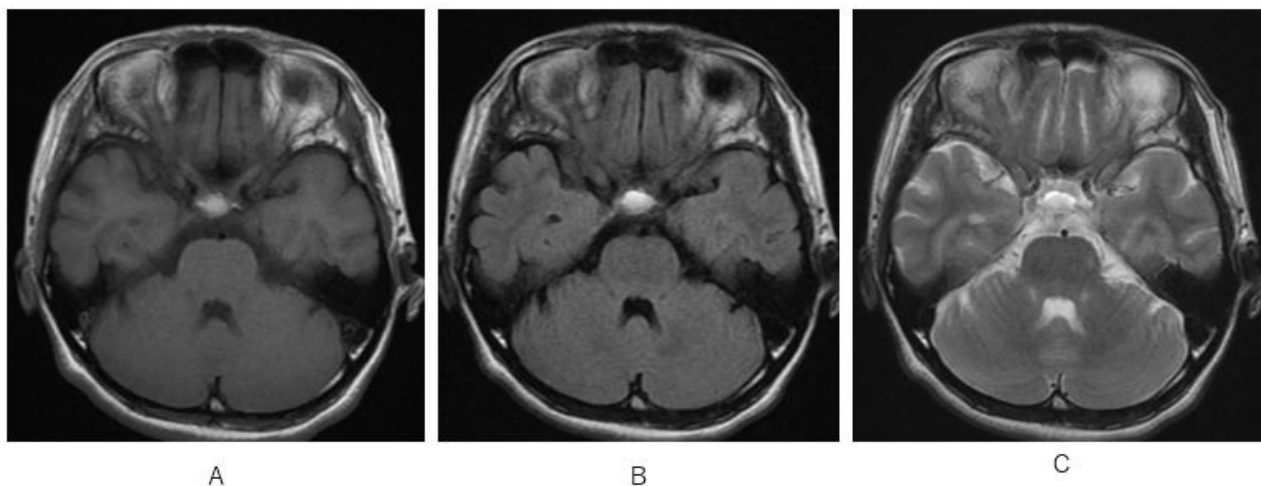


B

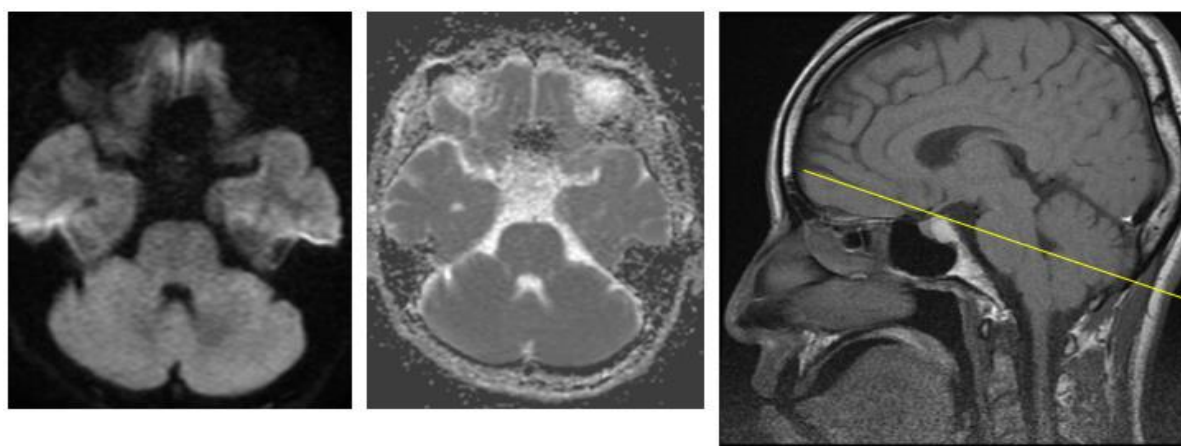


C

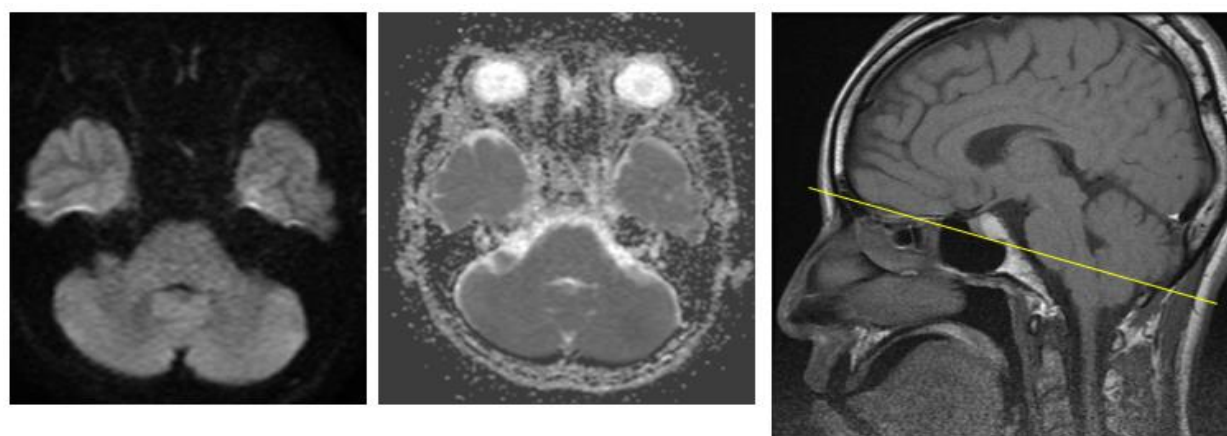
トルコ鞍内の脳下垂体に一致して軸位断、冠状断、矢状断で高信号域の病変を認める。



T1WIで脳下垂体の高信号は、FLAIRで高信号。
T2WIでは高信号内に等信号の病変を認める。



Axial images (Diffusion WI. ADC map)は MRIスライスの位置がトルコ鞍上縁
で病変の信号を反映していない。



同様にAxial images (Diffusion WI. ADC map) MRIスライスの位置がトルコ
鞍下縁で、病変の信号を反映していない。

ラトケ嚢胞 (Rathke cyst) : 中葉嚢胞

- 脳下垂体：前葉 (中葉) 後葉
- 脳下垂体：中葉嚢胞、胎生期遺残だが年齢とともに大きくなる
- 剖検 20%
- 30～50歳で大きさのピーク

3 cm以内で 無症状

大きくなれば 視交叉圧排(視野障害) 機能低下 プロラクチン上昇 頭痛

脳下垂体の発生
神経上皮から後葉
咽頭上皮から前葉、中葉

前葉と中葉の折り返しの
隙間がRathke cleft
閉鎖され嚢胞が残存

嚢胞内に上皮分泌物
Goblet 細胞
粘液様のムチン分泌

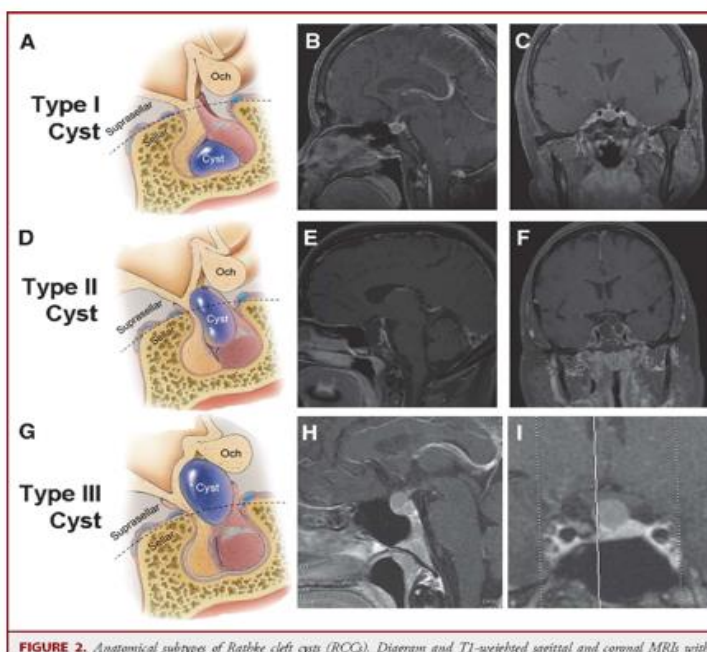
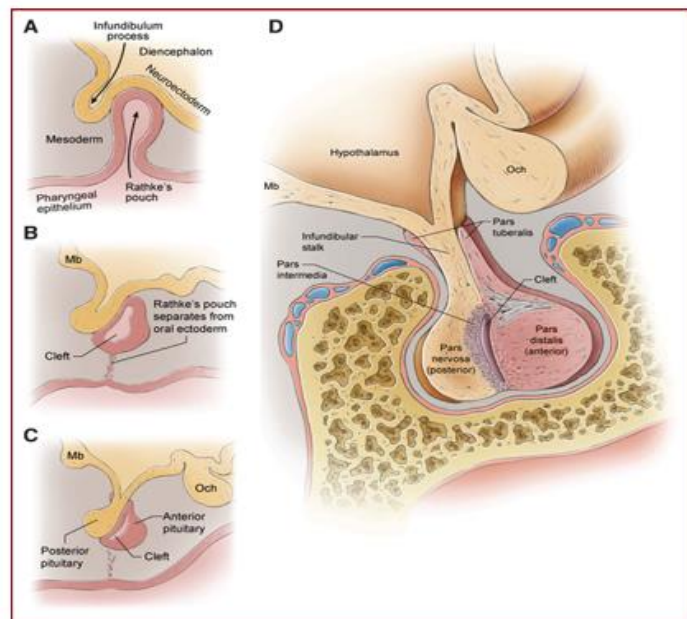
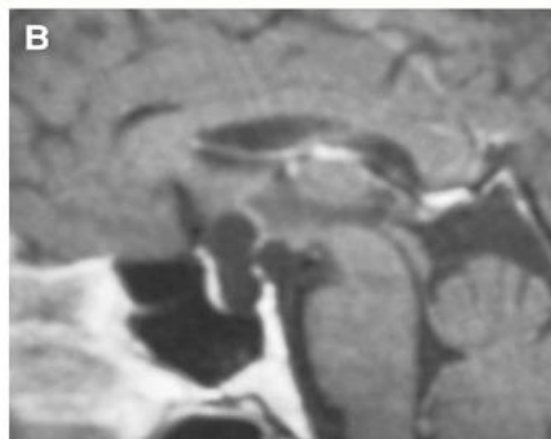
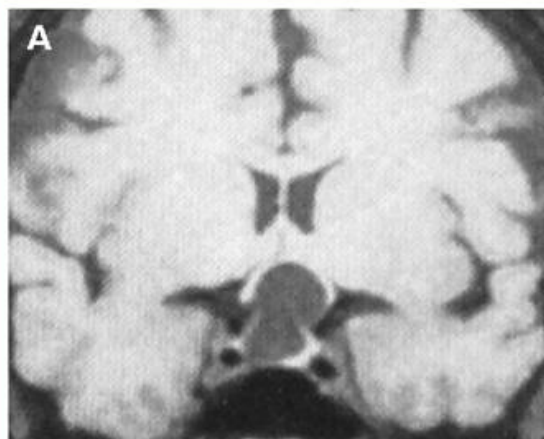
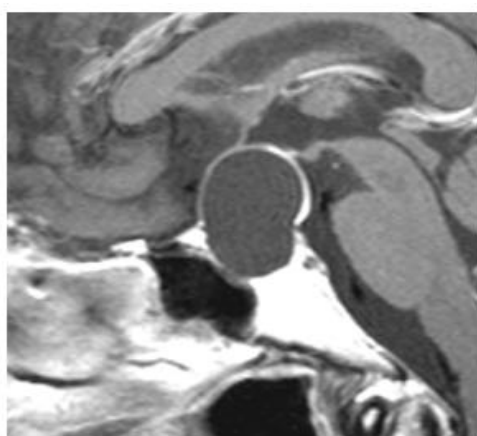


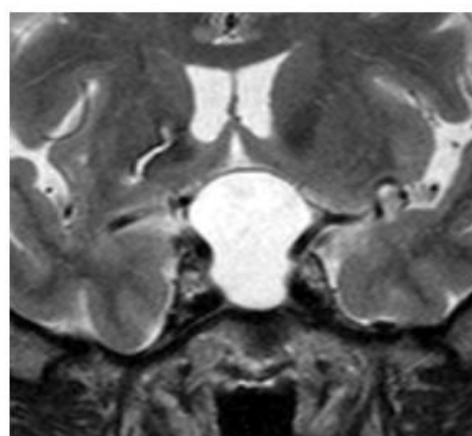
FIGURE 2. Anatomical subtypes of Rathke cleft cysts (RCCs). Diagram and T1-weighted sagittal and coronal MRIs with



トルコ鞍とその上部に嚢胞 ムチンが少ないと通常の嚢胞のパターン Type II型



T1WIで低信号

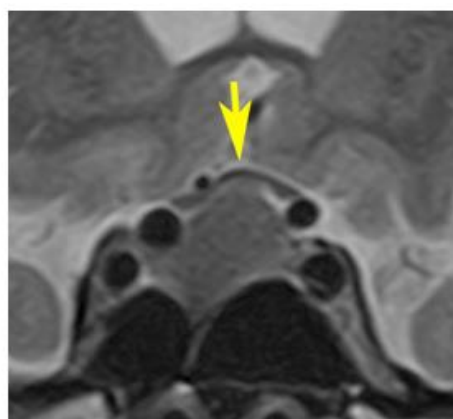


T2WIで高信号

ラトケ嚢胞：清澄な液体

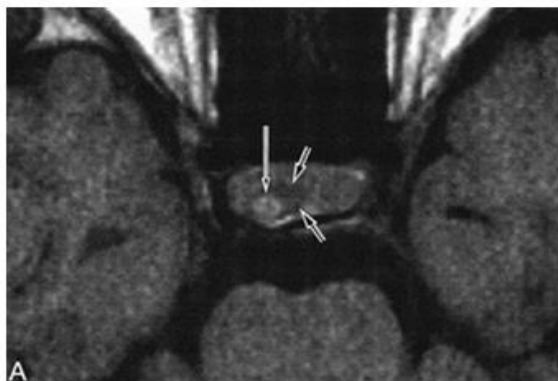


T1WIで高信号

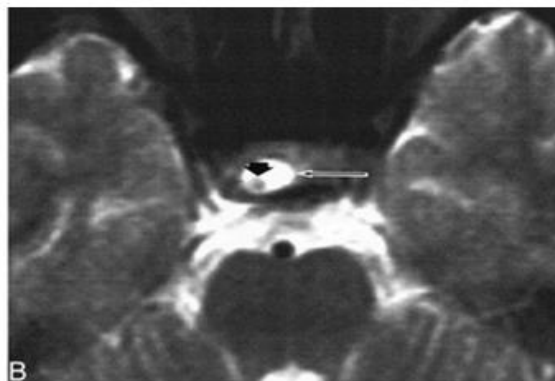


T2WIで低信号

ラトケ嚢胞：ムチンの多い液体

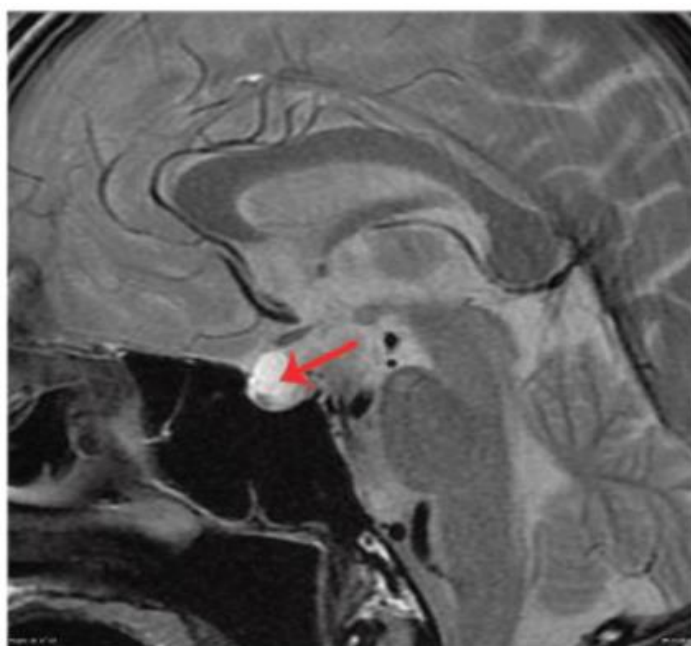


T1Wで内部に高信号域



T2WIで内部に低信号域

清澄な液の中にムチン粘調液の塊



Sagittal T2-weighted MRI showing a Rathke cleft cyst with characteristic intracystic nodule

清澄な液の中にムチン結節

T1WIで高信号
T2WIで低信号

出血のメトヘモグロビンと
同様のパターン

特徴的所見

ラトケ嚢胞の鑑別診断

- [cystic pituitary adenoma](#)
- [craniopharyngioma](#)
- [arachnoid cyst](#)
- [epidermoid cyst](#)
- [teratoma](#)